正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校

# 「たい」のあふれる時津小

↑こちらからも↑

令和６年１０月　７日（月）　発行人：校長　森内　秀学

## そういう大人に、きっとなります

先週の放課後のことです。ふと、校長室から運動場に目をやると、４人の６年生が、運動場の草を抜いていました。出て行って尋ねました。

校　長：「昼休みにみんなで抜くことになったって聞いたけど、わざわざ放課後にやってくれてるんだね。ありがとう。」

６年生：「ああ、修学旅行とかあって、あんまり抜く時間がないから…。」

こんなセリフを、子どもたちは、大したことありませんよ、といった顔で、事もなげに言うのです。私は、心から感心しました。世の中には、災害ボランティアの方々のように、困っている人がいれば真っ先に駆けつけてくれる人がいます。この子たちは、きっとそういう大人になるんだろうなあ、と思いました。

## 物の整備で環境を整える

最近、階段の踊り場や渡り廊下に、こんなゴミ箱が設置されています。よく見ると、「５年２組」の文字が。実はこれ、時津小版五つのしおり「ゴミのない学校」を実現するための、５年２組の工夫なのです。子どもたちが特に気になっていたのは、廊下や階段のゴミ。でもこれを置けば、ゴミを目にしても素通りせず、パッと拾って捨ててくれるのではないか、という発想です。

今のところ、効果は絶大！物を整備することで環境を整えるという発想は、いろいろなところで応用が利きそうです。

## 経験で、戸惑いを行動に

本校は、毎年全学年、西時津にある時和特別支援学校の子どもと、交流活動をしています。

時和の子どもたちとふれあう様子を見ていると、子どもの様子は大きく二つに分かれます。一つは、手を取ったり声をかけたりして、寄り添った行動ができる子ども。もう一つは、どうすればよいのか分からず、かかわれない子どもです。こうした子どもは、冷たいのではなく、経験が少なく、戸惑っているだけです。いろいろな人とふれあう経験は、子どもの戸惑いを減らし、よりよい行動へと導きます。ぜひ、ご家庭でもそのような機会を。